

財務総合政策研究所「中国研究会」(2025年3月19日)

# 大国間競争の中の中国

防衛研究所中国研究室長

増田 雅之

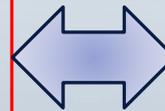
※報告内容は個人的見解に基づくものであり、所属機関・組織の公式見解ではない。

# 中国の戦略目標は何か？ —秩序の共有は可能か—

## 競争戦略

## 勝利戦略

- 人類運命共同体
- GDI、GSI、GCI



- 共産党統治(一党支配)
- 台湾問題



(写真)増田撮影



# 米中関係、東アジアの国際関係

## 揺らぐ「3つの体系」(高坂、1997)

- (1) パワーの体系: パワーシフト
- (2) 利益の体系: 選択的デカップリング?
- (3) 価値の体系: 民主主義 VS. 権威主義?

## 競合する米中

### U.S. versus China's power (military)

- China: a near-peer competitor; **luck of close security partners**
- U.S.: high-end capabilities; partnership network

### U.S. versus China's interest (economy)

- China: finance and technological development
- U.S.: innovation and standards
- **Competition within the single economic system: a web of supply-chain**

# 米中関係のターニングポイント

## 中国の認識と政策

- 胡錦濤政権(2002~12年)
  - 2009~10年: 新型大国関係、核心的利益【パワー、利益、価値】
- 習近平政権(2012年~)
  - 2013~14年: 周辺外交【パワー、利益、価値】
  - 2017年: 第19回党大会【パワー、利益、価値】
  - 2019年: 発展戦略【利益、価値】
  - 2022年~: ウクライナ戦争【パワー、価値】

## 米国の認識と政策

- オバマ政権(2009~17年)
  - 2010~12年: ピボット、リバランス【パワー、利益】
  - 2015年: 南シナ海問題【パワー】
- トランプ政権(2017~21年)
  - 国家安全保障戦略【パワー、利益、価値】
  - パンデミック【価値】+台湾問題【パワー、価値】
- バイデン政権(2021~25年)
  - 2022年~: ウクライナ戦争【パワー、価値】

# 米中競争の現在地

## China's Nuclear Expansion

	PRC	US (strategic warheads)
2010	approximately 200	2,200
2023	500+	1,550
2024	600+	1,550
2030	1,000+	
2035	1,500+	

Sources: U.S. Department of Defense (DoD), *Military and Security Developments involving the People's Republic of China 2023*, U.S. DoD, *Military and Security Developments involving the People's Republic of China 2024*.

Military Expenditure: 2000-2023

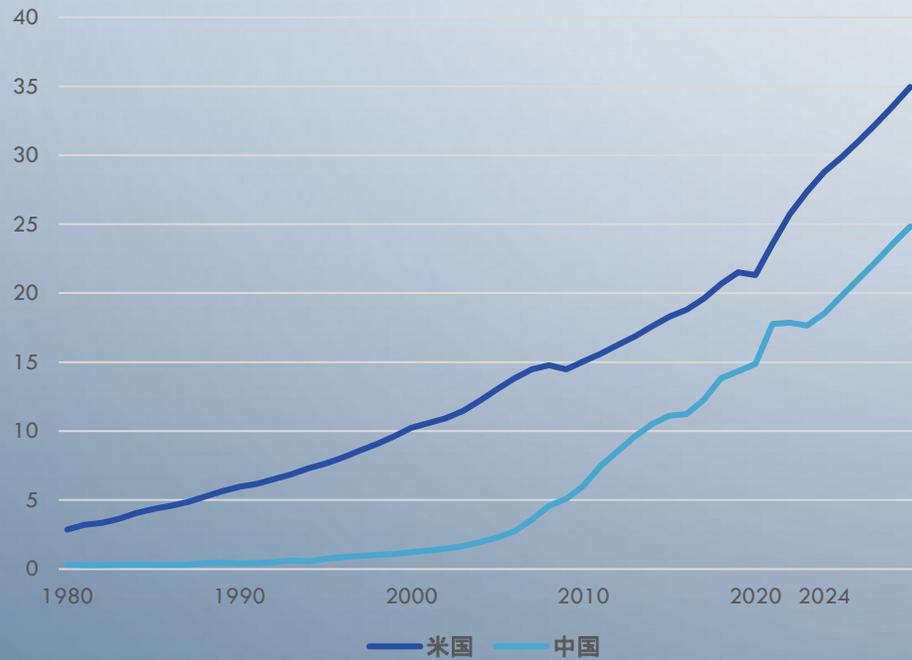


Source: SIPRI Military Expenditure Database

2025/3/27

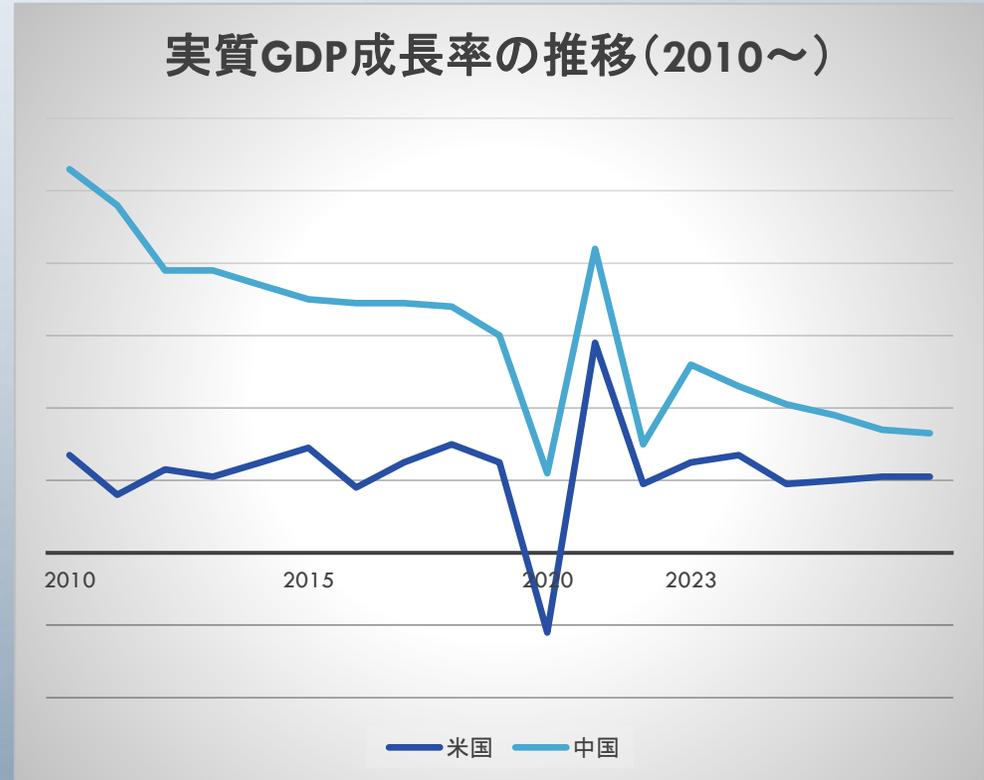
# 米中競争の現在地

## 名目GDPの推移(1980～)



(出所)IMF, World Economic Outlook Database (April 2024) より増田作成

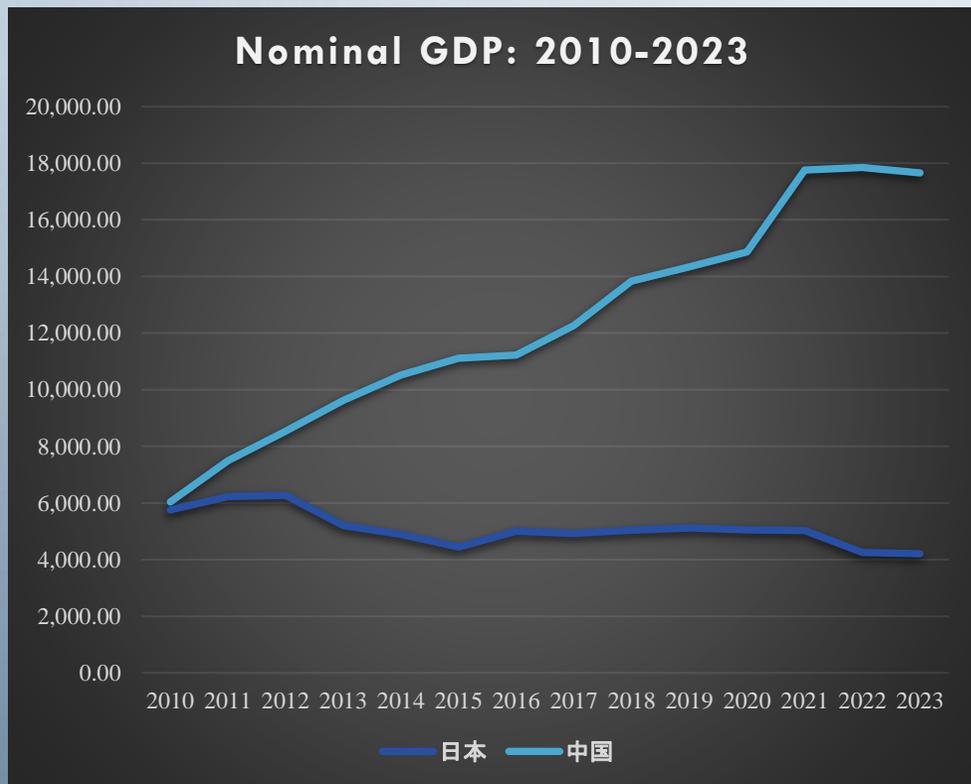
## 実質GDP成長率の推移(2010～)



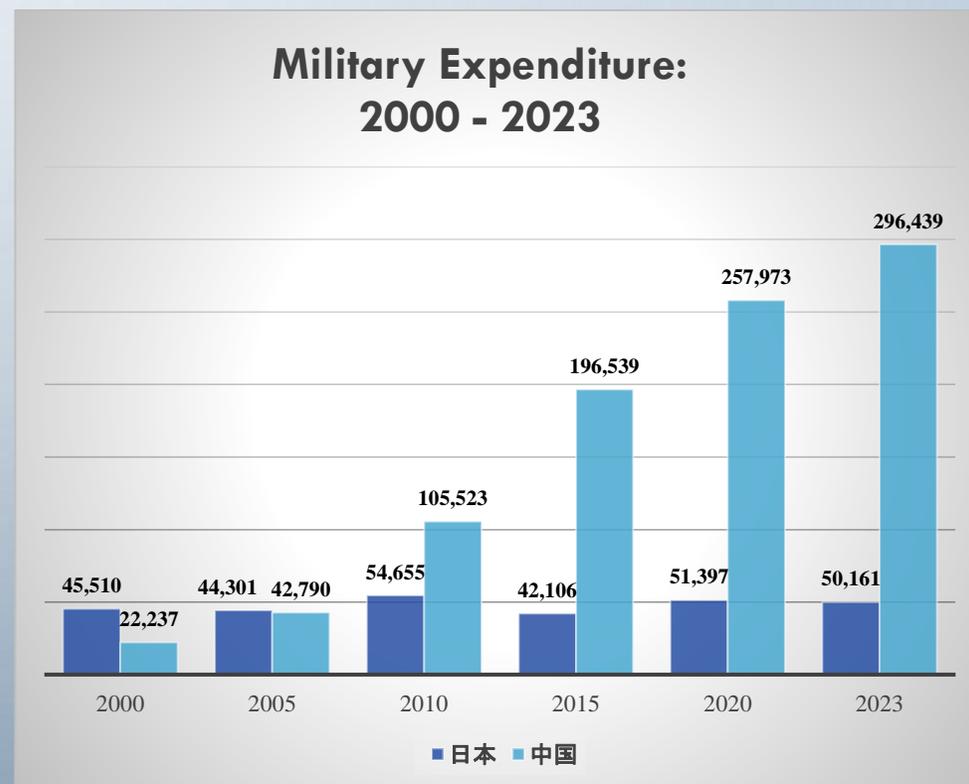
(出所)IMF Data Mapperより増田作成



# 日中関係はパワートランジション



Source: IMF, World Economic Outlook Database (April 2024)



Source: SIPRI Military Expenditure Database

2025/3/27

# 強まるグレーゾーン圧力



(出所)NHK、2024年6月15日

近づけないと、日本の漁船に認識させることを狙った。また4隻の海警艦船で編隊を組み、尖閣周辺に毎日派遣することを決定。さらに与那国島と西表島の間海域で海軍艦艇通過を活発化させる方針も決めた。23年に中国当局の艦船が領海外側の接続水域を含む尖閣周辺で確認された日数は、最多だった前年の336日を上回り、12月30日時点で351日となっている。

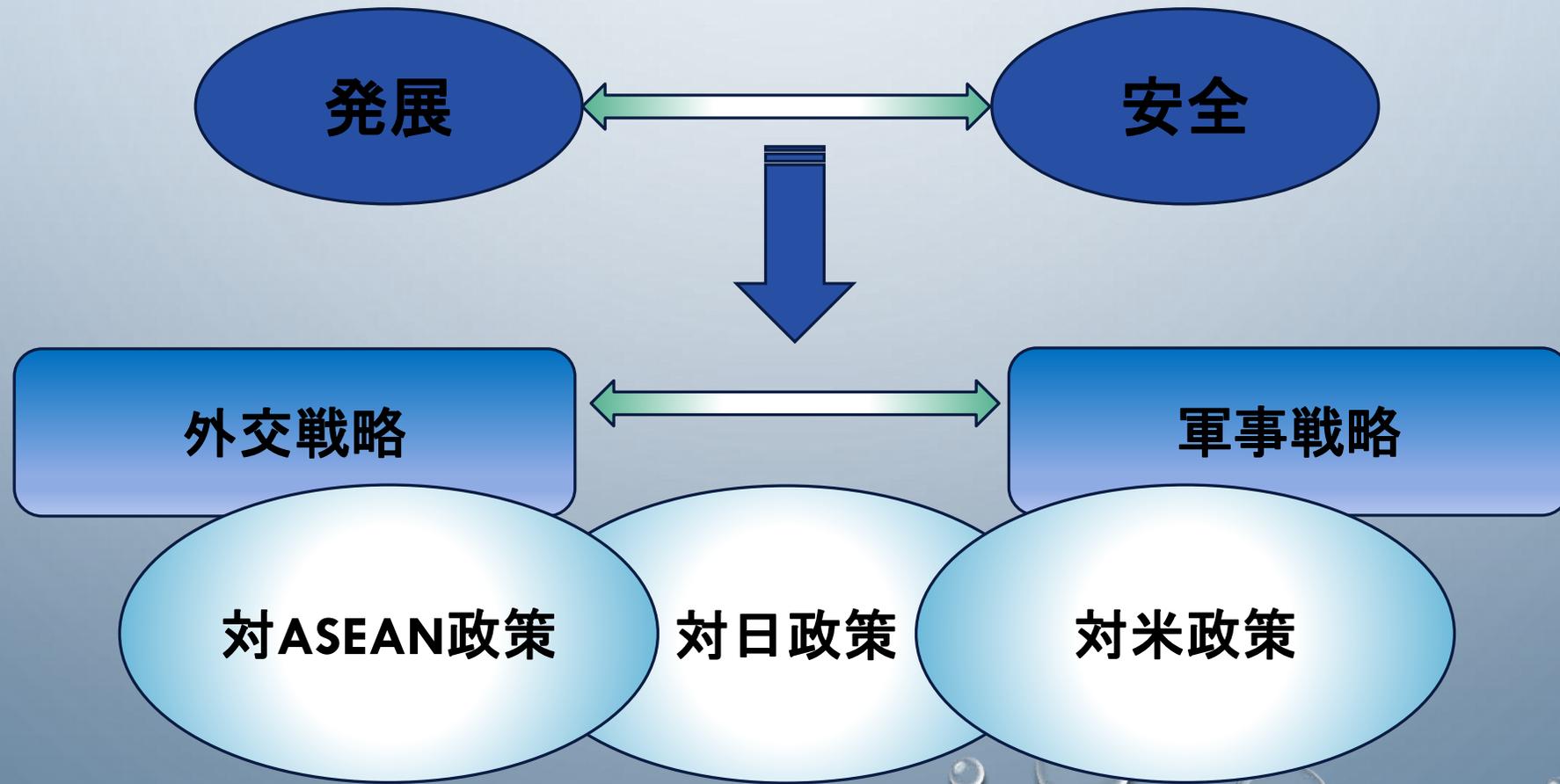
## 主導権握り関係構築

防衛研究所アジア・アフリカ研究室の増田雅之室長の話。中国の習近平国家主席は11月中旬の岸田文雄首相との首脳会談で戦略的互恵関係の推進を確認して、外交上は関係

を安定させる方向にかじを切ったように見える。ただ海軍や海警局からすると、防衛や警備にどう影響するのかわからない。そこで習氏自身が、国を守るオペレーションに変更はないと明確にし、日本が尖閣諸島を支配している現状を変えていく路線に変更はななく、むしろ強化するを示した。海上保安庁は、海警船による日本漁船への立ち入り検査を簡単にはさせないだろう。しかし海警局は中央軍事委員会の指揮下にある。もしも船舶同士が衝突するような事態が起きた場合には、海警だけではなく、後ろに海軍も控えている可能性を日本側は想起してしまつ。中国側は、そうしたエスカレーションの可能性を見せながら、自らに有利な状況下で主導権を握って日本と関係を構築することを狙っている。中国は日本優勢の現状での安定ではなく、中国も支配している新たな現状をつくった上で、尖閣情勢を安定させたいのだ。

(出所)『神奈川新聞』2023年12月30日

# 戦略目標をめぐる構図



# COLD WAR 2.0?

## 「反米枢軸」の形成に動く中国？

### □強まる中露「戦略的連携」

- 包括的パートナーシップの制度化
  - 軍事・安全保障:ロードマップの共有
  - 経済における相互補完関係の強まり
  - 国際社会における外交的な連携

### □グローバルサウスとの連携強化

- 経済をめぐるイニシアティブが中心
- 政治的リーダーシップの発揮には依然として慎重

基本は(対米)競争戦略(≠勝利戦略)

反米ナラティブの舞台は中露関係

ただし、ロシアはwartime condition下の生存戦略

中国の主導性確保が大前提

("half-in half-out" stance: Oriana Mastro 2024)

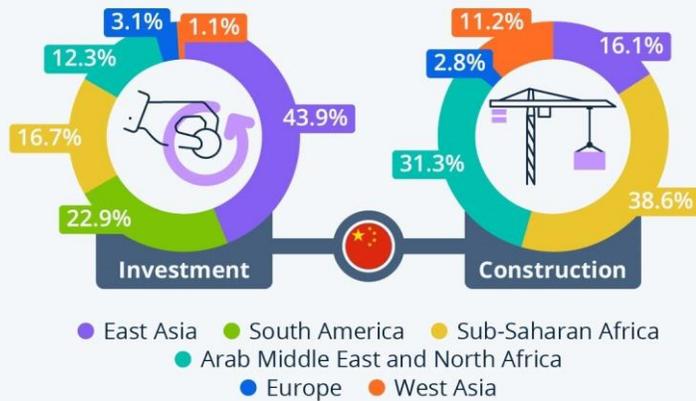
影響力の源泉は経済力(コネクティビティ⇒産業化)

(投資リスクへの厳しい国内世論も)

トランプ2.0で懸念される「空白」

## The Global Reach of China's Belt and Road

Distribution of Chinese Belt and Road Initiative investment and construction engagement, by region (H1 2023)



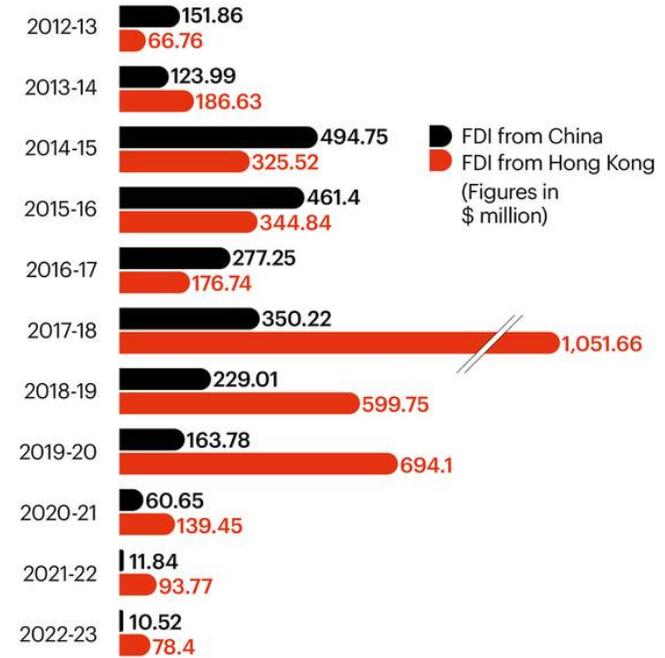
Source: Green Finance & Development Center



statista

Source: statista

## CHINESE FDI AT 10-YR LOW



Source: www.fortuneindia.com/

2025/3/27